



# 防災教育チャレンジプラン

<http://www.bosai-study.net>



# 防災教育チャレンジプランとは？

国内外で大規模な災害が起きている昨今、またいつ災害がやってくるかわかりません。いつやってくるかわからない災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害があった時すぐに立ち直る力を一人一人が身につけるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

全国各地の防災教育への意欲をもつ団体・学校・個人等に対し、より充実した防災教育のプランを募集し、「防災教育チャレンジプラン」として選出した上で、その実践への支援を行います。

一年間の実践の後、その実践例や支援した取り組みの内容をワークショップを通じて広く公開・共有するとともに優れた実践の表彰を行うことで、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指します。

防災教育  
チャレンジプラン  
の実践

新しいプラン内容の開発  
新しい連携体制の構築  
新しい教材の開発



# 防災教育チャレンジプランを通じて実現したいこと

1. 「防災教育チャレンジプラン」を通じ、防災教育の新しい試み、アイデアによる活動を支援します。
2. 防災教育に取り組む個人、団体の交流の場をつくり、知恵や情報の共有、取り組みの活性化を行います。
3. 防災教育を推進する個人や団体とともに、防災教育の輪を広げ、個人個人や地域における防災力の向上に努めます。



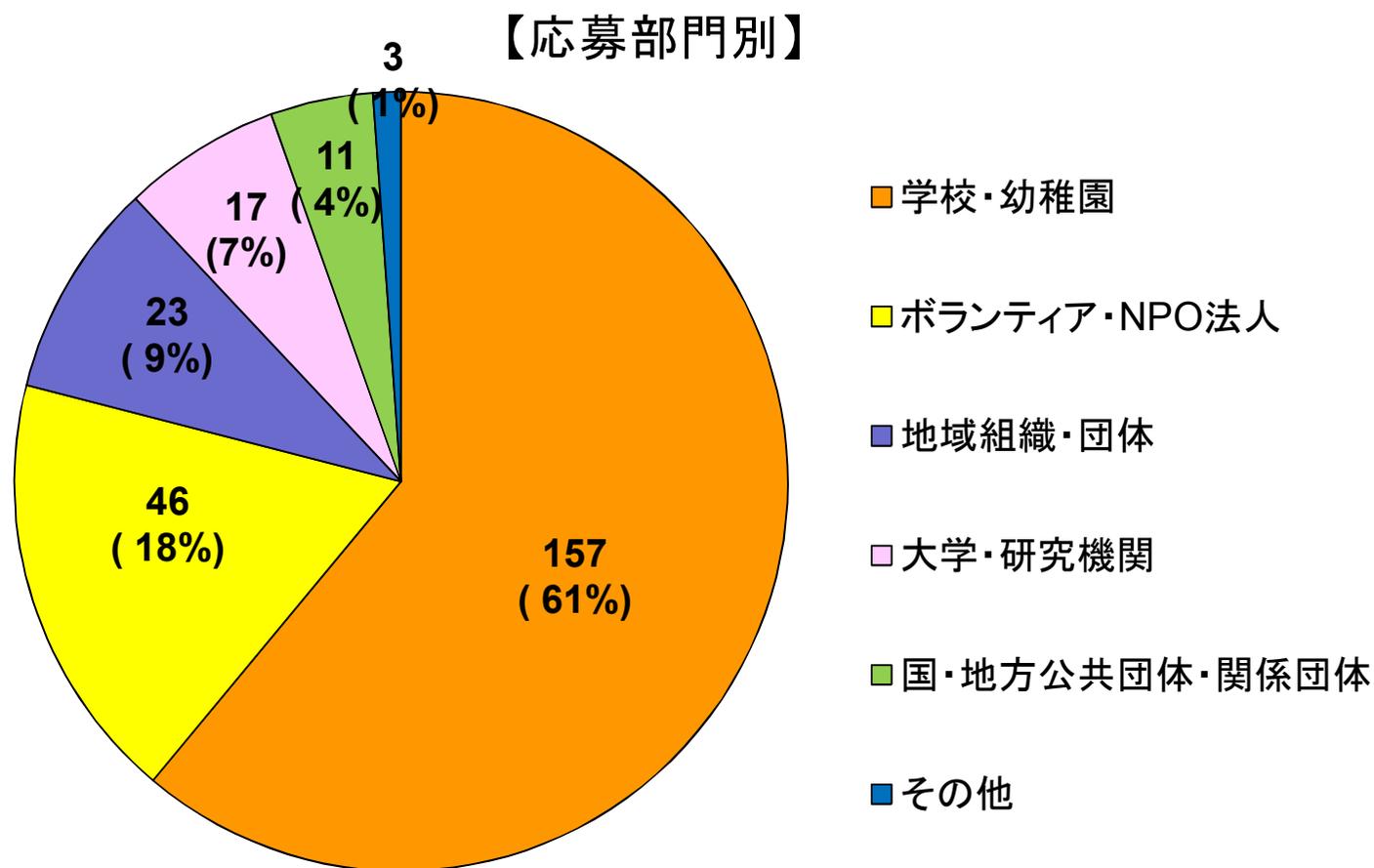
# 防災教育チャレンジプラン実行委員

委員長	林	春男	国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長 京都大学防災研究所巨大災害研究センター 特任教授
委員	市川	啓一	株式会社レスキューナウ危機管理研究所 代表取締役
	井上	浩一	防災ネットワークプラン 代表
	鍵屋	一	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 教授
	金田	義行	香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長 地域強靱化研究センター長 特任教授
	木村	玲欧	兵庫県立大学 環境人間学部 准教授
	国崎	信江	株式会社危機管理教育研究所 代表
	栗田	暢之	認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事
	齊藤	清一	特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク 事務局長
	佐藤	公治	南三陸町立志津川中学校 教諭
	佐藤	健	東北大学災害科学国際研究所情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野 教授
	澤野	次郎	災害救援ボランティア推進委員会 委員長
	篠田	貴司	新島村立式根島中学校 主任教諭
	島崎	敢	国立研究開発法人防災科学技術研究所社会防災システム研究部門 研究員
	諏訪	清二	防災学習アドバイザー・コラボレーター
	田村	拓	株式会社クオカード 常務執行役員
	中川	和之	株式会社時事通信社 解説委員
	中村	一樹	国立研究開発法人防災科学技術研究所気象災害軽減イノベーションセンター センター長補佐・研究推進室長
	平田	直	東京大学地震研究所 地震予知研究センター センター長・教授
	福和	伸夫	名古屋大学減災連携研究センター センター長・教授
	船木	伸江	神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 准教授
	舟生	岳夫	セコム株式会社IS研究所リスクマネジメントG 主務研究員
	南島	正重	東京都立両国高等学校附属中学校 主幹教諭
	天利	和紀	消防庁 国民保護・防災部 防災課 地域防災室 室長
	五島	政一	国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官
	佐谷	説子	内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(普及啓発・連携担当)
	廣瀬	昌由	内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(調査・企画担当)
	松室	寛治	文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室長
	吉田	邦伸	国土交通省水管理国土保全局防災課 緊急災害対策企画調整官



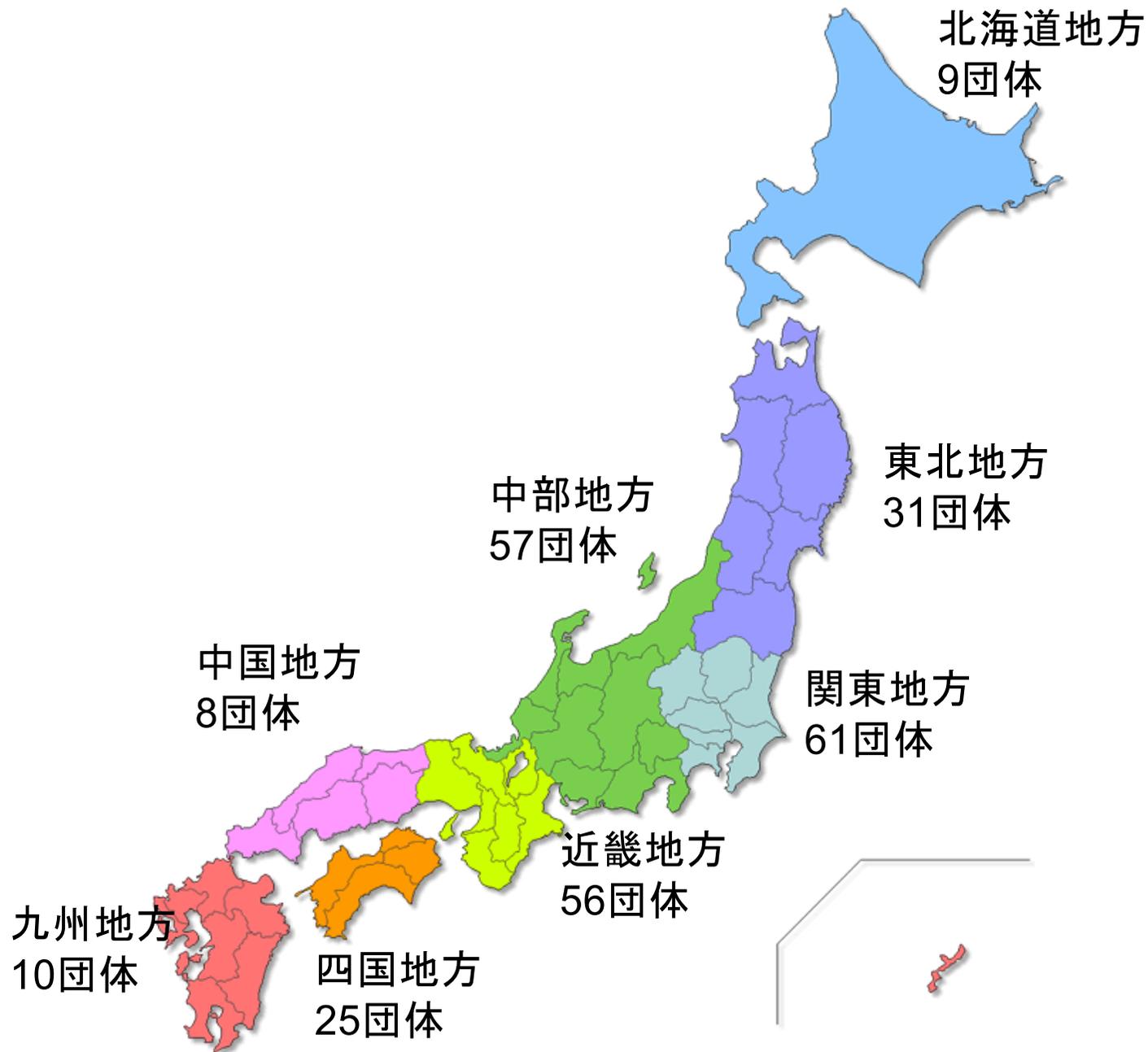
# これまでの支援状況について(応募枠、部門別)

2004年度から2016年度までの13年間で、延べ257団体の実践活動を支援してきました。





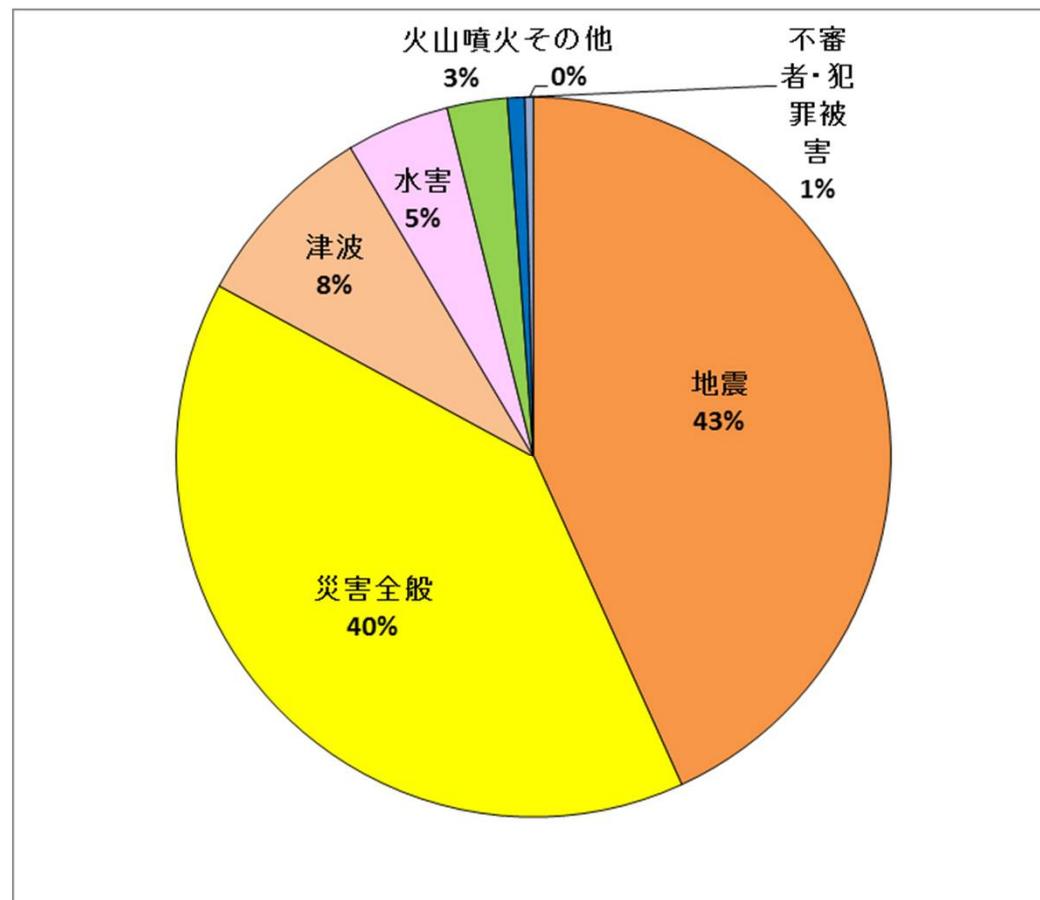
# これまでの支援状況について(地域別)





# これまでの支援状況について(対象とする災害別)

- 地震・・・111団体
- 災害全般・・・102団体
- 津波・・・22団体
- 水害・・・12団体
- 火山噴火・・・7団体
- 不審者・犯罪対策  
・・・2団体
- その他・・・1団体





# 具体的な支援内容

- 防災教育チャレンジプランは、一年間かけて新しい防災教育プログラムを磨き上げるための支援を行います。

## 1. 活動資金の提供

- ・ 最大30万円の活動支援金を提供します。

## 2. 報告会・交流会への招待

- ・ 東京での3回のイベントを通じ、他の実践団体、アドバイザー等との交流の機会を提供します。

## 3. 活動アドバイスの提供

- ・ 実践団体のニーズや事情を踏まえ、アドバイザーを派遣し、関連情報を提供します。

- これらによる活動成果は、防災教育チャレンジプランのホームページを通じ、広く社会に情報発信されます。



# 募集概要

## 【サポートの内容】

- プランの実践にかかる経費の提供／上限 30 万円（査定による）  
※活動・予算計画書の提出及び団体名義の口座が必要となります。
- 交流フォーラム（中間報告会）・活動報告会（最終報告会）発表者への交通・宿泊費の支給。（1名分×3回分）
- プランの実現に向けて、実行委員会が認定する防災教育チャレンジプランアドバイザーが助言や現地指導等の支援を行います。
- 防災活動の手法・事例の収集と活動情報の発信ができる各種webツールを提供します。

## 【サポート主体】

- 防災教育チャレンジプラン実行委員、防災教育チャレンジプランアドバイザーおよび防災科学技術研究所研究員
- 防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
- その他、実行委員・アドバイザー等が紹介する諸団体

## 【表彰】

- 活動プロセス及び成果に対して審査を行い、優秀な実践活動に対して、防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を決定し、表彰状と盾を授与いたします。
- 防災教育チャレンジプラン「サポーター」として認定いたします。

## 応募資格

- ・防災教育を一層充実させたいと考えている教育・社会福祉施設（保育施設・幼稚園・学校等）、教育委員会、NPO、民間企業、個人、地域団体（民間事業所、各種団体、行政機関）
- ・採用された場合は、都内にて開催予定の実践団体決定会、中間報告会、最終報告会の計3回の会合に出席できること。

## 応募部門(プランの対象別)

- |              |             |             |
|--------------|-------------|-------------|
| A. 保育園・幼稚園の部 | B. 小学校低学年の部 | C. 小学校高学年の部 |
| D. 中学校の部     | E. 高等学校の部   | F. 大学・一般の部  |

## 応募方法

ホームページ (<http://www.bosai-study.net>) より事前登録後、応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上ホームページへアップロードしてください。

## 1年間の流れ

- 1 募集**  
応募締切2017年11月24日(金)  
教育・社会福祉施設／教育委員会／NPO／地域団体／個人
- 2 審査**  
2018年1月
- 3 決定発表**  
2018年2月17日(土)  
2017年度防災教育チャレンジプラン活動報告会  
開催(会場:都内にて開催予定)  
○2018年度チャレンジプラン発表  
○2017年度チャレンジプラン成果発表・表彰  
(防災教育大賞、優秀賞、特別賞の決定)  
○学校や団体等、防災教育関係者の情報交換等
- 4 実践**  
2018年4月～2019年3月  
2018年度  
防災教育チャレンジプランの実践  
○チャレンジプランへのサポート  
プラン進行や教材作成にあたってのアイデア提供  
・資料提供等  
○アドバイザー等の紹介・派遣等
- 5 中間報告**  
2018年10月(予定)  
2018年度防災教育交流フォーラム  
開催(会場:都内にて開催予定)  
○2018年度チャレンジプラン中間報告  
○交流会・意見交換会  
○学校や団体等、防災教育関係者の情報交換・事例紹介等
- 6 成果報告**  
2019年2月(予定)  
2018年度防災教育チャレンジプラン活動報告会  
開催(会場:都内にて開催予定)  
○2018年度チャレンジプラン成果発表・表彰  
(防災教育大賞、優秀賞、特別賞の決定)  
○防災教育チャレンジプランサポーターに認定  
○2019年度チャレンジプラン発表

## 審査

「防災教育チャレンジプラン実行委員会」の選考により決定します。審査の結果は、事務局よりメールにて応募団体へご連絡します。（応募締め切り後1ヶ月程度）

### 【審査の観点】

- ・プラン実施により地域防災力の向上に貢献できること
- ・応募された防災教育プランの有効性・新規性
- ・活動の中に新しいチャレンジの要素が含まれているもの

### 【次年度チャレンジプランの発表】

- ・当年度の活動報告会（最終報告会）の会場にて、次年度チャレンジプランの計画を発表いただきます。



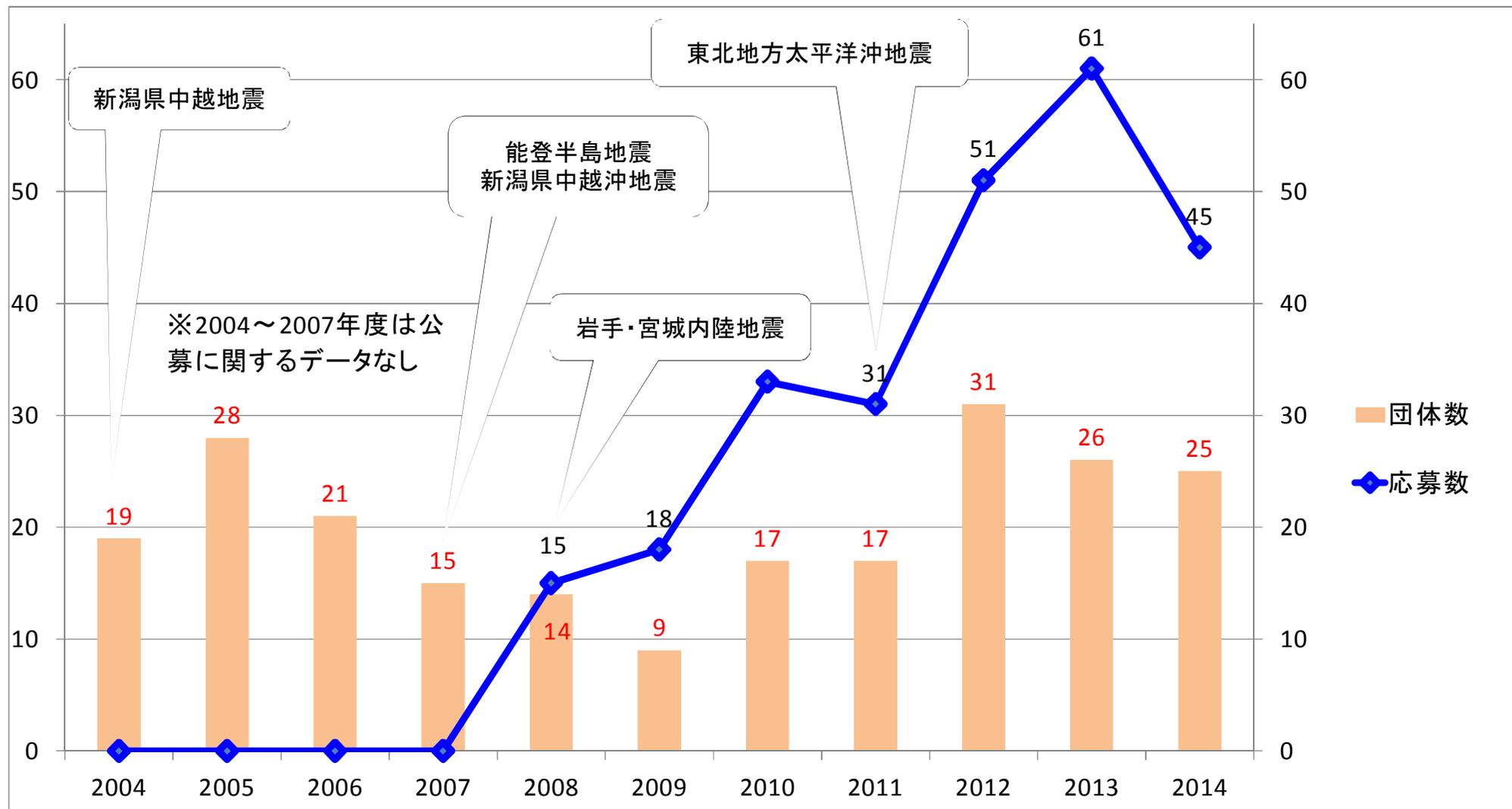
# これまでの防災教育チャレンジプランの活動

年度	主な出来事	国内の主な自然災害
2004	防災教育チャレンジプラン実行委員会発足	平成16年7月福井豪雨 平成16年7月新潟・福島豪雨 新潟県中越地震(10月)
2005	—	—
2006	—	平成18年豪雪 平成18年7月豪雨
2007	メールマガジン発行開始	能登半島地震(3月) 新潟県中越沖地震(7月)
2008	報告会の会場を建築会館ホールから有明の丘基幹的広域防災拠点施設へ移行	岩手・宮城内陸地震(6月) 平成20年8月末豪雨
2009	—	平成21年7月中国・九州北部豪雨
2010	中間報告会を「防災教育交流フォーラム」に改称し、中間報告会と防災教育交流会の2日間の日程で開催	—
2011	被災地の実践団体3団体に「復興教育特別大賞」を授与	東北地方太平洋沖地震(3月) 平成23年7月新潟・福島豪雨
2012	実践団体の応募枠として入門枠を創設	平成24年7月九州北部豪雨
2013	防災教育チャレンジプラン10周年	—
2014	・第3回国連防災世界会議にて優秀団体による事例発表を実施 ・「地域における防災教育の実践に関する手引き」発行	—
2015	—	平成27年9月関東・東北豪雨



# 防災教育チャレンジプランの10年

- 防災教育チャレンジプランは、新潟中越地震が発生した2004年にスタートし、毎年10～30の実践団体の活動を支援しています。





# 年間スケジュール

①全国各地の防災教育への意欲をもつ団体・学校・個人等に対し、より充実した防災教育のプランを募集

③活動報告会にて実践プランの計画を発表

⑤中間報告会にて実践プランの中間成果を発表



②「防災教育チャレンジプラン実行委員会」の選考により決定

(審査の観点:プラン実施により地域防災力の向上に貢献できること。等)

④プラン実施期間

(サポート内容:実践にかかる経費の提供、アドバイザー・サポーターによる助言や現地指導等の支援 等)

⑥活動報告会にて実践プランの活動成果を発表

(表彰:優秀な活動に対して表彰をする。チャレンジプランサポーターとして認定する。)



# 活動の様子





# 報告会の様子



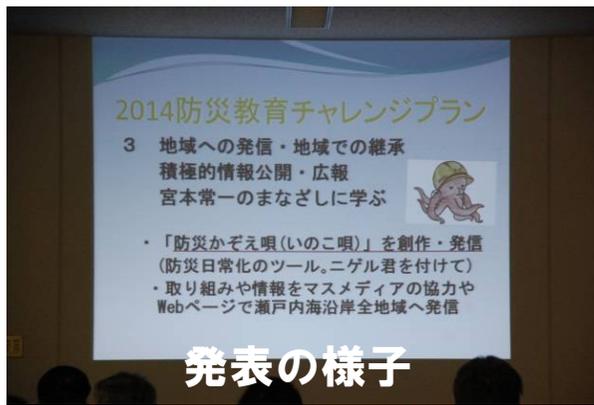
報告会会場入り口



報告会会場内の様子



発表の様子



発表の様子



発表の様子



発表の様子



# 表彰について

1年間の実践の後、その実践例や支援した取り組みの内容を活動報告会を通じて広く公開・共有するとともに優れた実践の表彰を行うことで、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指します。

【過去の受賞団体と活動の様子(2015年度、2016年度)】

## 過去の受賞団体と活動の様子

**防災教育大賞** 豊橋障害者(児)団体連合協議会 (豊橋市障害者福祉会館さくらピア)  
体験しよう備えよう 障害者の防災を考える集いさくらピア 避難所体験



防災グッズの作成など、独自の取り組みを多く実践している点、「障害者に対する防災教育」を多くの人に理解してもらえるよう、効果的な企画を立案・実践している点、知識や避難行動の定着に向け、粘り強く、工夫しながら取り組んでいる点などが高く評価されました。

**防災教育大賞** 香川県立盲学校  
災害弱者と言わせない！香川県立盲学校のチャレンジII



様々な機関・他団体と連携しながら、身近な物を利用した様々な体験学習や訓練等を通じ、視覚障害者に対する総合的な防災教育に取り組むことができている点、視覚障害者に対する防災教育は前例が少ない中、試行錯誤を繰り返しながら、丁寧に取り組んでいる点、取組を通じて、「生徒」、「教員」、「地域」の意識改革において着実な成果が見られる点などが高く評価されました。

**防災教育優秀賞** 大島町立小学校 (つばき小学校・さくら小学校・つつじ小学校)  
大人たちから子どもたちへ、子どもたちから大人たちへ、今伝えたいこと  
東京都立足立工業高等学校  
災害時に工業高校生として何が出来るか? 自助・共助の精神を育成する教育。

**防災教育優秀賞** 埼玉県日高特別支援学校  
車椅子の視点から防災へ! ~かわせみ防災プロジェクト~  
西予市立皆田小学校  
ジオと向き合った防災教育

**防災教育特別賞** 高知市立南海中学校  
「まもれ 高知 (ふるさと)」 Nankai Survival Project (NSP)

**防災教育特別賞** いのちを守る防災教育を推進する会  
ワークショップを活用したいのちを守る防災教育の普及

'16

名古屋市立工芸高等学校 防災チーム  
つなぐ ~地域、企業、行政、学校の架け橋を目指して~

'15

名古屋市立中央高等学校 (昼間定時制)  
4つのチャレンジプラン・中央高校総力挙げて取り組みます!



# 防災教育チャレンジプラン審査委員

- 委員長 渡邊 正樹 東京学芸大学教育学部 教授／日本安全教育学会 理事長
- 委員 安藤 雄太 法政大学現代福祉学部兼任講師
- 池内 幸司 東京大学大学院 工学系研究科 教授
- 佐伯 光司 東京電力ホールディング株式会社 常務執行役
- 重川 希志依 常葉大学大学院 環境防災研究科 教授
- 嶋倉 泰造 東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 代表取締役 社長
- 戸田 芳雄 東京女子体育大学 教授
- 土橋 久 国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事
- 芳賀 一夫 東日本電信電話株式会社 ネットワーク事業推進本部  
サービス運営部 災害対策室長
- 林 春男 国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長
- 福島 隆史 株式会社TBSテレビ 報道局 社会部 兼 解説・専門記者室 解説委員
- 山上 伸 東京ガス株式会社 常務執行役員
- 山崎 登 国土舘大学 防災・救急救助総合研究所 教授
- 米澤 健 内閣府 大臣官房審議官(防災担当)
- 米田 徹 日本ジオパークネットワーク理事長／新潟県 糸魚川市長



# サポーター制度の概要

- サポーターとは

防災教育チャレンジプランの実践団体としての活動で得られた成果やノウハウを、各地域の中で普及・啓発させる担い手となる個人又は団体である。

サポーターは、メールマガジンによる定期的な情報交換や、実践団体への個別アドバイス等を実施する。

- サポーターの認定

防災教育チャレンジプランで、一年間実践団体として活動し、成果を報告した団体。

毎年2月に開催する活動報告会において、サポーター認定証を授与する。

## サポーター認定証

秋田県大館市立第二中学校殿

貴団体は「2012年度防災教育チャレンジプラン」実践団体として多大な成果をあげられました。

今後もその成果を活かして防災教育普及のためにサポーターとして活躍されることを期待しこれを証します。

2013年2月9日。

防災教育チャレンジプラン実行委員会。

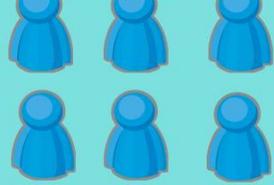
委員長 林 春男。



# 外部への情報発信と交流について

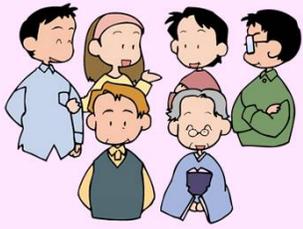
## 情報発信

CP事務局スタッフ



メールマガジンの発行  
ホームページでの情報公開

一般



実践団体



サポーター



実行委員



## 他事業との交流

防災教育チャレンジプラン以外の防災教育関連事業との交流を図るため、防災教育交流フォーラムにおいて他事業の主催者・事例団体や、地域で防災教育に取り組む方々を招待し、講演・意見交換を行っています

<2013年度の実施例>

- 岩手県立宮古工業高等学校  
(消防庁 防災まちづくり大賞受賞団体)
- 特定非営利法人まなびのたねネットワーク  
(文部科学省 復興教育支援事業採択団体)
- NPO法人さくらネット  
(1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」事務局)
- 日本損害保険協会  
(小学生のぼうさい探検隊マップコンクール主催者)



# 参考) 実践団体の活動の様子

## 2015年度 防災教育大賞受賞

香川県立盲学校

プラン名「災害弱者と言わせない！香川県立盲学校のチャレンジⅡ」



防災合宿

### 香川県シェイクアウトプラスワン



ダンゴムシのポーズ訓練

様々な機関・他団体と連携しながら、身近な物を利用した様々な体験学習や訓練等を通じ、視覚障害者に対しての総合的な防災教育に取り組むことができている点、視覚障害者に対しての防災教育は前例が少ない中、試行錯誤を繰り返しながら、丁寧に取り組んでいる点、また、取組を通じて、「生徒」、「教員」、「地域」の意識改革において着実な成果が見られる点などが高く評価されました。



# 参考) 実践団体の活動の様子

## 2016年度 防災教育大賞受賞

豊橋障害者(児)団体連合協議会(豊橋市障害者福祉会館さくらピア)

プラン名「体験しよう備えよう 障害者の防災を考える集い さくらピア 避難所体験」



さくらピアサマースクール

さくらピア親子防災教室



さくらピア避難所体験

防災グッズの作成など、独自の取組みを多く実践している点、「障害者に対する防災教育」を多くの人に理解してもらえるよう、効果的な企画を立案・実践している点、知識や避難行動の定着に向け、粘り強く、工夫しながら取り組んでいる点などがとても高く評価されました。



# 参考) 過去の受賞団体(2004~2006年度)

年度	表彰	団体名	年度	表彰	団体名
2004	大賞	和歌山県 田辺市立 新庄中学校	2006	大賞	神戸学院大学 学際教育機構 防災・社会貢献ユニット
	優秀賞	高知県 高知市立 大津小学校		優秀賞	社会福祉法人 知恩福社会 海童保育園
	優秀賞	静岡県 南伊豆町立 南中小学校		優秀賞	阪神・淡路大震災まち支援グループまち・コミュニケーション
	優秀賞	愛知県 名古屋市立 大曾根中学校		優秀賞	千葉県立 市川工業高等学校 建築科耐震研究班 建築科主任
	特別賞	NVN 日本沼津災害救援ボランティアの会		特別賞	静岡県建築士会 (有限会社マルワ建工)
	特別賞	防災一座		特別賞	学校法人 遺愛学院 遺愛女子高等学校
	特別賞	和歌山県 串本町 防災対策課		特別賞	KiraKira
2005	大賞	徳島県 美波町立 (旧由岐町) 由岐中学校	2007	特別賞	千葉県立 市川工業高等学校 建築科 教諭
	優秀賞	千葉県 我孫子市立 湖北小学校		大賞	静岡県立 御殿場南高等学校 地学教室
	優秀賞	高知県立 高知東高等学校		優秀賞	社団法人 兵庫県建築士会 住教育支援チーム
	優秀賞	高知県立 高知東高等学校		優秀賞	国立大学法人山口大学・地域防災ユニット
	特別賞	(社)土木学会 巨大地震災害への対応検討特別委員会/地震防災教育を通じた人材育成部会		優秀賞	独立行政法人 国立高等専門学校機構 秋田工業高等専門学校
	特別賞	特定非営利活動法人ぴーす		特別賞	特定非営利活動法人 日本沼津災害救援ボランティアの会 (NVN)
	特別賞	小松市民防災センター		特別賞	岩手県 大船渡市立 綾里小学校
			特別賞	愛媛県 松山市立 生石小学校	



# 参考) 過去の受賞団体(2008年度以降)

年度	表彰	団体名	受賞理由
2008	大賞	特定非営利活動法人ひまわりの夢企画	震災で家屋が倒壊した場合などを想定した、難易度が調整できる楽習(がくしゅう)迷路という教材を作成し、迷路内に配置した、災害時に必要な物資が記載されたカードの収集などから、被災時に必要な物や防災活動などを学べる点が評価されました。
	優秀賞	高知県立高知東高等学校	全生徒と全教職員が一体となって防災教育プログラムを展開し、校内に「地震防災プロジェクト委員会」を設置し、他校生徒や地域とのワークショップなどにより、防災教育の取り組みを地域に広げた点が評価されました。
	優秀賞	名古屋大学災害対策室 歴史災害教訓伝達プロジェクト ～1944東南海・1945三河地震	「1クラス・1年間」「多人数・2時間」という2つのプログラムを実践し、その中で、土地の歴史災害である三河地震の体験を元にした再現絵など地域に密着した教材の作成、演劇による地域へ還元などが評価されました。
	優秀賞	社会福祉法人岐阜アソシア視覚障害者生活情報センターぎふ	「障害者は全て要援護者か」という疑問から出発し、触(しょく)地図(ちず)の作成や普通救命講習1の習得などを通して、障害があっても当事者としてできることがあることを発見し、実践した点が評価されました。
	特別賞	なでしこ防災ネット	女性視点での防災対策に着目し、サバイバルDayキャンプなどで発見した課題やその解決策などを時系列に取りまとめたリーフレットや、視覚障害者向けの点訳リーフレットを作成したりするなど、多くの教材を作成し、活動の輪を広げた点が評価されました。
	特別賞	東北福祉大学ピンチヒッター	災害時に配布される非常食に一般的な食材を加えるなどアレンジし、乳幼児や高齢者のレシピを作成したことや、アレルギーをお持ちの方のためにレシピを工夫するなど、災害時における食の問題に取り組んだ点が評価されました。
	特別賞	和歌山県立有田中央高等学校	防災マインドマップという新しい教材に取り組んだこと、高校生の総合学習として9教科に防災を組み込み、防災教育・実習・訓練から災害時の身の守り方などを学ぶだけでなく、その知識を出前授業で活用した点が評価されました。
2009	大賞	宮城県丸森町立丸森東中学校	改援隊(かいえんたい)という組織を作り、少子高齢化の中山間地で、中学生が主体となってPTAや地域住民、社会福祉協議会など多くの団体と連携し、地域防災訓練を実施するなど、地域防災力の向上に取り組んだことや、農業など幅広い分野にも波及して取り組んだ点が高く評価されました。
	優秀賞	紀の川市立荒川中学校	阪神・淡路大震災の被災者取材し、体験談などを防災教育番組として作成し、校内放送という学校にある設備を使って、全校生徒へフィードバックするとともに、放送内容の小冊子化や地域と連携した防災マップを作成した点が評価されました。
	優秀賞	特定非営利活動法人日本沼津災害救援ボランティアの会	高齢者が行うAEDという視点から、災害弱者にならない高齢者を育成するための訓練や、AEDを一般の方へ、より知ってもらうためのAEDマップ作成などの普及を実施したこと、AEDの手順を歌で覚えてもらうなど工夫を重ねた点が評価されました。
	特別賞	滋賀県立彦根工業高等学校都市工学科	高校生が地域住民や小学生らと一緒に災害時の避難場所に「かまどベンチ」を製作し、防災設備を形として残すとともに、「かまどベンチ」を使った炊き出し訓練を行うなど、地域とのコミュニケーションをより一層深める取り組みを実施した点が評価されました。



# 参考) 過去の受賞団体(2008年度以降)

年度	表彰	団体名	受賞理由
2010	大賞	滋賀県立彦根工業高等学校	「かまどベンチづくり」を通じた小学校や地域との交流を継続しつつ、高齢者福祉施設との製作交流により、高齢者からの防災知識・知恵を継承するなど、地域・行政・関係団体との連携を一層深め、「一物多様」な展開をしたことが評価されました。
	優秀賞	なでしこ防災ネット	井戸や湧水の現状調査を行い、災害時に生活に必要な水をどうやって確保するかを目的にした実践的な訓練を行ったこと、また視覚障害者などの災害時要援護者への配慮が感じられたこと、そして子供も含めた大勢の市民の参加による取組であったことが評価されました。
	優秀賞	釜石市立釜石東中学校	「助けられる人」から「助ける人」への防災教育として被災者を出さないことを目的としたことや「安否札1000枚配布大作戦！」などが新しい視点での取組であったこと、全校生、全教員、そして地域と連携して実施されたことが評価されました。
	特別賞	西大和6自治会連絡会	特に住民の「共助」の意識を高めることを目的として地域を巻き込み、また切実な課題となっている災害時要援護者対策の要綱を作るなど、他の団体にも展開していくことができる、モデルとなる活動であった点が評価されました。
	特別賞	佐用高校農業科学科防災プロジェクトチーム	豪雨によって被災した地域の活性化に、農業高校の特性を生かした花の栽培と提供を核とした活動がなされたことが、復興期の住民の精神面の働きかけるものとして新鮮であること、今後の活動の展開に期待ができる点が評価されました。
2011	大賞	愛知県立半田商業高等学校	商業高校の特性を活かした商品開発と販売に獨創性がある、かつ同様の専門性を持つ学校での取組の参考となる点、そしてデジタル紙芝居など、高校生・小中学生の双方の防災意識向上に役立っている数々の活動を行っている点、「ハートツリー」の販売実習により義援金を届ける活動が被災地への大きな復興支援活動となったため。
	優秀賞	高津養護学校 たかつ地域ネットワーク推進会議	災害時要援護者支援という大きな課題に対し、避難所設営訓練という具体的で実践的な活動を5年間継続し、結果として地域との連携を含め定着してきた活動となった点、そして「静かな避難所」など様々な要援護者への配慮を持った取り組みであったため。
		「やさしい日本語」有志の会	必ずしも対策が十分ではない在日外国人の災害時の安全確保に積極的かつ具体的に取り組んでいる点、そしてその汎用性及び有用性の高さが評価されたため。
	特別賞	千葉県立東金特別支援学校	防災マルチパーテーションの作成など自らアイデアを出しての活動となり障がいのある方にも自ら参加して役に立っているという意識を持たせることができた点、そして特別支援学校と高齢者など地域のネットワークが構築されつつあり成果を上げているため。
		糸魚川市立根知小学校	地域の歴史と自然環境を結び付けた上で、地域住民も巻き込み防災教育の視点からジオパークに関する学習を再構築した点や、徹底的に子供たちに考えさせる姿勢を貫き通すことで臨機応変な対応ができるようにリードしているため。
復興教育特別大賞	釜石市立釜石東中学校 南三陸町立歌津中学校 宮城県大河原町立金ヶ瀬中学校	3月11日の東日本大震災で被災しながらも、防災教育チャレンジプランの実践団体として1年間大変な中活動を続け、復興に向けて地域に多大な貢献をされました功績を称えるため、特別に設定された。	



# 参考) 過去の受賞団体(2008年度以降)

年度	表彰	団体名	受賞理由
2012	大賞	糸魚川市立根知小学校	アイデアが豊富で、実効性のある訓練をこどもが楽しんで学べる点、学校をあげた組織的な活動であり、継続性が期待できる点、他校への波及が見られる点、児童だけでなく、保護者・地域を取り込んだ防災レベルの向上につながっているため。
	優秀賞	秋田県大館市立第二中学校	中学生が地域の防災リーダーになるというコンセプトに、将来への有効性やインパクトがある点、積雪という地域に特有の災害をとらえて訓練を行うなど、地域に根付いた活動を行っているため。
		千葉県立東金特別支援学校	防災をテーマとした地域との交流に熱心に取り組み、地域の防災力向上に貢献している点、特別な防災教育ではなく、歌などの一般的な教育の中に防災の視点を取り入れている点、完成度、汎用性が高く他団体の参考になる取組であるため。
	特別賞	気仙沼市立階上中学校	東日本大震災という厳しい体験を乗り越え、防災対策を見直し、新たな取組を行っている点、その結果として、昨年末の地震発生の際に、避難所設営など中学生自ら訓練通りの行動ができ、成果が発揮できている点、来年度は復興の観点も踏まえた新たなチャレンジに期待できるため。
		わがやネット	家庭における家具の転倒防止という身近な防災対策に焦点を絞って、地域に根付いた継続的な取組が行われている点、さらに、子どもたちへの教育という新たなチャレンジを行っているため。
2013	大賞	気仙沼市立階上中学校	小中合同の訓練、学年別防災体験活動、避難所設営訓練など様々な訓練の充実が図られ、地域と密接に連携しつつ、震災を風化させない工夫がなされている点、3年間で防災学習のサイクルを構築するなど、体系的かつ継続性が高い取組みがなされている点、また、こうした取組みが生徒の主体的な行動に結びついているため。
	優秀賞	仙台市立南吉成中学校	学校教育の中で、充実した活動が多岐にわたり行われ、生徒の関心を保つ工夫がなされている点、地域を含めた防災訓練・シンポジウムを中学生が主導し、地域防災力の向上に貢献している点、丁寧なアンケート分析により成果を明確にし、PDCAサイクルのもと取組の充実がなされるとともに、汎用性や有効性が示されているため。
		飯田市赤十字奉仕団	郷土の災害について丹念に調べ、紙芝居により後世に語り継ぐ努力がなされている点、良質の紙芝居が多く場で上演され、DVD化によりさらに活用の幅が広がった点、前作の「恐怖の集中豪雨」や、今作の「飯田大火とりんご並木」など新たなチャレンジをしつつ、地域とのつながりを拡大する努力を行うなど、継続的に活動されているため。
	特別賞	アトリエ太陽の子	防災教育の根本として、「命の大切さ、尊さ」というテーマを明確にし、子供たちの感受性に強く訴え、心に残る取組としての工夫をこらしている点、被災地への精神的な支援において、高い独自性を発揮している点、また、このような独自性の高い取組みを他の地域でも取り組めるようパッケージ化にも努めているため。
		千葉県立千葉聾学校	大きな被災経験が少ない地域で、試行錯誤しつつ、学校を中心として関係機関・地域・家庭が連携し、多様な「命を守る学習・訓練」を通じて、熱心に防災教育に取り組み、確実に防災意識の向上を図ることにより、地域防災力の向上につなげているため。
		御嵩町立上之郷小学校	親子で居住する地域の防災安全マップの作成、テーマパークの避難誘導の聞き取り調査など、学校周辺の活動に留まらず、あらゆる場所での災害との遭遇に対して危機意識を持った活動が行われている点、地域とのつながりが希薄な中で防災コミュニティへの積極的な参加を図りつつ、障害への理解と共助の意識の共有に努めているため。



# 参考) 過去の受賞団体(2008年度以降)

年度	表彰	団体名	受賞理由
2014	大賞	仙台市立南吉成中学校	中学生が主体的に防災訓練の企画等を行うことによって、生徒の防災活動に対する主体性・積極性が養われる。地域防災の中核となる中学生の育成が計られている点、学校・地域・家庭の強度体制化を図り、学校という枠を超えた地域全体としての防災教育活動を展開しているため。
	優秀賞	香川県立盲学校	聴覚・嗅覚・触覚などを生かした独自の体験型学習を進め、これにより生徒の防災力の向上が計られた点、避難所等における目の不自由な人の円滑な移動について、ガイドロープを用いた方法を提案し、実証実験を交えたため。
		上富田ふれあいルーム	非常に多くのプログラムを熱心に企画・実施し、防災教育の主な対象である子供たちが飽きない工夫をしている点、また、子供たちが自ら考え動くプログラムを行うことによって、子供たちの責任感や積極性が養われているため。
		埼玉県立日高特別支援学校	災害時に身体が不自由な生徒をいかに避難させるかという難しいテーマに対して、緊急地震速報を用いた避難訓練、そして引き渡し訓練の実施、職員研修による校内危険箇所の洗い出しなど、着実に検討を積み重ねているため。
	特別賞	周防大島町立城山小学校	瀬戸内海地域の地震津波対策の要点をかぞえ唄としてまとめ上げ、子供から老人まで対象を選ばず、広く防災活動を行ってきた点、過去の災害の教訓から学び、今後の地震津波対策に生かそうとしているため。
防災腹話術研究会		独自性の高い分野にも関わらず、教室に通うことで自己修得し、子供から大人まで対策を選ばない防災知識の啓発ツールを作り上げた点、また、教本の作成や研修会を通して、取組みを進め、全国に広めようとしているため。	
2015	大賞	香川県立盲学校	様々な機関・他団体と連携しながら、身近な物を利用した様々な体験学習や訓練等を通じ、視覚障害者に対する総合的な防災教育に取り組むことができている点、視覚障害者に対する防災教育は前例が少ない中、試行錯誤を繰り返しながら、丁寧に取り組んでいる点、また、取組を通じて、「生徒」、「教員」、「地域」の意識改革において着実な成果が見られるため。
	優秀賞	埼玉県立日高特別支援学校	子供が興味を持ちやすく、理解しやすい様々な取組みを実践している点、活動が定期的・継続的に実施されており、知識・行動の定着が期待できる点、児童生徒、保護者、教職員、PTAをはじめとして地域の人々と密接に連携しながら防災教育に取り組むことができている点、また、他団体の取組事例等を効果的に活用・応用できているため。
		西予市立皆田小学校	町歩き等を通じて「地域を良く知ることを実践し、効果的に地域防災力の向上を図ることができている点、実験や体験を通して、災害や地域特性について科学的な理解を深めることができている点、また、自然災害の恐ろしさだけでなく、享受している恩恵についても学習できている点、バランスの取れた取組みになっているため。
	特別賞	いのちを守る防災教育を推進する会	ワークショップのシナリオについて、約20校に及び小・中・高の教職員と連携し、子供が主体的・積極的に参画可能な完成度の高いプログラムを作成した点、広域な地域における学校を対象とし、3団体が高度に連携しながら効果的な防災教育活動を実践できている点、また、気象予報士会との連携によるTV放送等、広報活動を積極的に実施しており、今後の展開に期待が持てるため。
名古屋市立中央高等学校(昼間定時制)		「単位制・定時制」の学校では様々な困難がある中、多くの工夫した取組を実践し、効果的に防災意識の向上を図っている点、具体的には、演劇やスポーツ等、楽しく参加できるイベントに防災教育を組み込むことにより、効果的に防災意識の向上を図っている点、災害をテーマにしたラジオドラマや職員による演劇、防災クイズ等、取組みに独自性があるため。	



# 参考) 過去の受賞団体

年度	表彰	団体名	受賞理由
2016	大賞	豊橋障害者(児)団体連合協議会 (豊橋市障害者福祉会館さくらピア)	防災グッズの作成など、独自の取組みを多く実践している点、「障害者に対する防災教育」を多くの人に理解してもらえるよう、効果的な企画を立案・実践している点、知識や避難行動の定着に向け、粘り強く、工夫しながら取り組んでいる点等が高いため。
	優秀賞	大島町立小学校(つばき小学校・さくら小学校・つつじ小学校)	地域の特色を良く活かして取り組んでいる点、科学的な観点から深く学習できている点、島内の小中学校が年間を通して交流・連携し、取組みを深化させている点等が高いため。
		東京都立足立工業高等学校	全ての教科において効果的な防災教育を実践しており、新規性、独自性が見られる点、生徒と教職員が一体となって取り組んでいる点、防災士の資格取得など、生徒が効果を実感しやすい取組みを行っている点等が高いため。
	特別賞	高知市立南海中学校	中学生が主体的に行動し、地域と連携した防災教育を実践している点、中学生の取組みを起点として、地域に防災文化を構築するという一連の取組みに新規性が見られる点、多くの機関と効果的に連携している点等が高いため。
名古屋市立工芸高等学校 防災チーム		工芸と芸術の学校という特徴を活かした取組みを実践している点、生徒が主体的に行動し、広く団体、企業等と関係を築くことができている点、今回の成果を応用し、より魅力的な取組みへと発展させている点等が高いため。	



# 「地域における防災教育の実践に関する手引き」の作成

「地域における防災教育の実践に関する手引き」は、全国各地で防災教育の輪を広げることを目的に、優秀な先進事例から得られる「取組を進めるための知見」を整理し、防災教育を実践する過程で生じる様々な課題を解決するためのヒントを示すものとして作成しました。

我が国のソフト対策の優れた取組みを世界に発信するため、「地域における防災教育の実践に関する手引き」の英訳を併せて実施しました。

## 1. 手引きの対象

教育・福祉関係団体(学校、幼稚園、保育施設など)に限らず、地域住民団体、ボランティア団体、地方公共団体などにおいて、これから防災教育に初めて取り組もうとする方を主な対象としています。

## 2. 防災教育の目的

地域に属するひとりひとりの防災意識の向上を図り、地域内の連携を促進することなどにより、地域の防災力(災害を未然に防止し、災害が発生した場合における被害の拡大を防ぎ及び災害の復旧を図る力)を強化することを目的とします。





# 「地域における防災教育の実践に関する手引き」の作成

(参考)手引きに整理した「防災教育を実践する上で重要な18のポイント」

## 《3つの段階》

準備

実行

継続

## 《6つの要素》

人 担い手・つなぎ手

運営 組織・体制

場 時間・場所

お金 資金・経費

ネタ 知識・教材

コツ 工夫

段階	要素	防災教育を実践する上で重要なポイント
準備段階	人(担い手)	① 担い手を決める
	人(つなぎ手)	② 地域のキーパーソンと連携する
	運営(組織)	③ 取組主体を組織化する
	運営(体制)	④ 活動範囲を無理に広げない
	場(時間)	⑤ 準備時間を確保する
	場(場所)	⑥ 活動場所を確保する
	お金(資金)	⑦ 活動資金を確保する
	ネタ(知識)	⑧ 知識や情報を収集する
	ネタ(教材)	⑨ 目的に応じた教材(プログラム)を作成する
実行段階	人(つなぎ手)	⑩ 経験豊富なアドバイザーを確保する
	運営(体制)	⑪ 地域の理解を得て関係機関と連携する
	場(時間)	⑫ 活動時間を確保する
	お金(経費)	⑬ 経費を低減させる
	コツ(工夫)	⑭ 他の実践団体と交流する
継続段階	人(担い手)	⑮ 後任者を育成する
	ネタ(教材)	⑯ 知恵や経験を形式知化する
	コツ(工夫)	⑰ 成果を外部に発表する
	運営、ネタ、コツ	⑱ 活動内容を継続的に見直す



# 国連防災世界会議における成果報告

平成27年3月14日に第3回国連防災世界会議の関連事業の1つである「防災教育交流国際フォーラム」が開催されました。

日本や海外の防災教育分野で中心的な役割を果たされている方々が一堂に会し、「これまで行われてきた防災教育の取組」や「今後の防災教育のあり方」について、発表や議論が行われました。

## 【概要】

- ①東日本大震災やインド洋大津波、四川大地震など、国内・海外の大震災の被災地から世界に向けてその経験や教訓を発信
- ②日本全国で取り組まれる防災教育・地域防災の優秀事例を紹介（「地域における防災教育の実践に関する手引き」を紹介）
- ③防災教育を通じた災害に強い地域づくりに向けた今後10年の取組みを示す「仙台宣言」を採択



# 国連防災世界会議における成果報告 防災教育交流国際フォーラムの概要

別添 3



第3回 国連防災世界会議 パブリック・フォーラム

## 防災教育交流国際フォーラム レジリエントな社会構築と防災教育・ 地域防災力の向上を目指して

Development of a Resilient Community and Improving Disaster Education and Regional Disaster Preparedness

言語：日本語・英語(同時通訳)

日時 **2015年3月14日(土)**  
9:30~16:50 (開場9:00)

会場 **東北大学川内北キャンパス  
マルチメディア教育研究棟 2F  
マルチメディアホール**

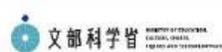
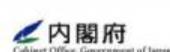
本フォーラムでは、東日本大震災やインド洋大津波、四川大地震など、国内・海外の大震災の被災地から世界に向けてその経験や教訓を発信します。また、日本全国で取り組まれる防災教育・地域防災の優秀事例を紹介します。そして、防災教育を通じた災害に強い地域づくりに向けた今後10年の取り組みを示す「仙台宣言」を採択する予定です。会場では、日本や世界の学校などで実際に使用される防災教育教材などの展示も行います。

### ACCESS



仙台市営バス：仙台駅前16番のりば「広瀬通経由交通公園・川内(豊)行」広瀬通経由交通公園(循環)東平 バス停川内駅(徒歩15分)

主催 東北大学災害科学国際研究所 防災教育普及協会  
国連防災世界会議防災教育日本連絡会 内閣府(防災担当) 文部科学省  
共催 岩手県教育委員会 宮城県教育委員会 福島県教育委員会 仙台市教育委員会  
全国学校安全教育研究会 東京都学校安全教育研究会 日本安全教育学会



東北大学前3号館5階505号室を会場としています。

Development of a Resilient Community and Improving Disaster Education and Regional Disaster Preparedness

### PROGRAM (暫定)

9:30 **開会挨拶** 渡邊正樹 防災教育普及協会副会長、東京学芸大学教授  
**招待講演**  「大震災の経験を踏まえた日本の防災教育発展の20年」  
戸田芳雄 学校安全教育研究所代表、東京女子体育大学教授

9:55 **第一部 東日本大震災の被災地から学ぶ**  
挨拶 大越正浩 文部科学省スポーツ青少年学校健康教育課長  
**東日本大震災の被害実態と教育復興**  
教藤 健 東北大学災害科学国際研究所教授  
**東日本大震災被災地における教育復興と防災教育の取り組み**  
宮城県教育委員会、岩手県教育委員会、福島県教育委員会、仙台市教育委員会  
**東日本大震災被災地における復興・防災教育の実践事例**  
石巻復興教育プログラム、被災結プロジェクト、カケアガレ日本  
**展示紹介**  
震災アクションカードゲーム、彦根工業高校(滋賀県)、アトリエ太陽の子(兵庫県)、全国教育委員会、他

12:00 昼食・休憩(展示コーナー見学、参加者交流)

13:00 **第二部 世界、日本各地の防災教育の実践から学ぶ**  
挨拶 内閣府  
**1. 世界の大震災被災地における取り組みから**  
**2004年インド洋大津波被災地インドネシア国バンダアチエ州の防災教育**  
サムスル・リザール シャークアラ大学学長  
ハイルル・ムナディ シャークアラ大学津波災害軽減研究センター所長  
ムハマド・ディルハムシャー シャークアラ大学大学院災害科学プログラム長  
**2008年四川大地震と中国の学校安全**  
鄭 林生 四川大学-香港理工大学災害復興管理学院執行院院長、教授  
コメンテーター ミーヨン・チョイ 国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)、ジャカルタオフィス教育専門部長  
**2. 防災教育 優秀実践事例から**  
**シェイクアウト訓練**  
マーク・ベンセン 南カリフォルニア地産センター 局長、神奈川県鹿間市  
**日本各地から**  
仙台市南吉成中学校(宮城県)、気仙沼市陸上中学校(宮城県)、盛岡市あそびま・senka(岩手県)  
田辺市立新庄中学校(和歌山県)、東金特別支援学校(千葉県)、やさしい日本語(東京都)  
**「地域における防災教育の実践に関する手引き」紹介**  
林 春男 防災教育チャレンジプラン実行委員長、京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授

15:55 **第三部 仙台宣言とパネル討議**  
コーディネーター 矢崎良明 全国学校安全教育研究会顧問、鎌倉女子大学講師  
パネリスト 今村文彦 東北大学災害科学国際研究所所長、教授 林 春男 防災教育チャレンジプラン実行委員長  
平田直 防災教育普及協会会長、東京大学教授 藤岡達也 仙台宣言起草委員副委員長、滋賀大学教授  
渡邊正樹 日本安全教育学会会長 他

16:40  **仙台宣言採択・閉会挨拶**  
今村文彦 東北大学災害科学国際研究所所長、教授、国連防災世界会議防災教育日本連絡会会長

16:50 **展示コーナー見学(於1階ラウンジコーナー)**

18:00 **防災教育交流会(懇親会)(於川内北キャンパス キッチンテラス・クルール)** ※別にお申込みが必要です。

フォーラム・懇親会のお申し込みはこちらから → <http://www.bousai-edu.jp/jde-liaison-network/contact.html>



[最終切り：2015年2月28日]

お問い合わせ先 **東北大学災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野**  
Tel. 022-752-2104 Fax 022-752-2105 Email: drdm1@irides.tohoku.ac.jp (担当 根井)  
一般社団法人 防災教育普及協会(公益財団法人 日本法制学会内)  
Tel. 03-6822-9901 Fax 03-3556-8217 E-mail: edinfo2014@bousai-edu.jp (担当 宮崎)